

平成30年11月12日
(2018年)

保護者の皆さまへ

吹田市立第六中学校
校長 上西 創司

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

【国語 A】 国語Aの本校平均正答率（本校値）は、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」のすべての観点において大阪府平均、全国平均をやや上回り、「主として知識を問う内容」においては学力の定着が見られます。

【国語 B】 国語Bの本校値は、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」のすべての観点において大阪府平均、全国平均をやや上回り、無回答も少ないことから、「主として活用を問う内容」においても学力の定着が見られます。

【国語における成果と今後の改善点】 作文に関しては、中学1年生からの作文指導を続けている成果が現れていると思われますが、「書いた文書を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する」については、全国平均を下回っていることから、今後、授業をとおして、考えたことを「伝える」、「表現する」力をさらに養っていきます。

【数学 A】 数学Aの本校値は、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」のすべての観点において大阪府平均、全国平均を上回り、「主として知識を問う内容」においては学力の定着が見られます。しかし、「関数」の領域については、全国値と同様、正答率が低く、理解を深めるための工夫が必要であると考えます。

【数学 B】 数学Bの本校値は、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」のすべての観点において大阪府平均、全国平均を上回り、「主として活用を問う内容」においても学力の定着が見られます。また、昨年度、全国値を下回っていた「資料の活用」の領域も全国値を上回り、すべての領域で、全国値を上回ることであり、学習した事柄を活用する力もついていることがわかります。

【数学における成果と今後の改善点】 「数学の勉強は好きですか」、「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対する肯定意見の割合が、全国値を上回り、本調査においてもよい結果として表れています。一方で「数学の授業で学習したことが、将来、社会に出て役に立つ

と思いますか」という質問に対する肯定意見の割合が全国値より低くなっています。今後は、学んだことが実際の生活や身近な場面で如何に活用されているかについても指導していきます。

【理科】 理科の本校値は、「自然事象への関心・意欲・態度」、「科学的な思考・表現」、「観察・実験の技能」、「自然事象についての知識・理解」の観点において大阪府平均、全国平均をやや上回り、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」におけるすべての領域別に見ても、「主として知識を問う内容」、「主として活用を問う内容」において、学力の定着が見られます。

【理科における成果と今後の改善点】 「理科の勉強は好きですか」、「理科の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対する肯定意見の割合が、全国値を上回り、本調査においてもよい結果として表れています。今後は、学んだことを定着させる反復学習を取り入れ、生徒自身が深く考えることのできる発展的な課題を取り入れていきます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学校生活や学習に関するもの】 授業の中で、自ら主体的に取り組む姿勢や、話し合う活動、自分の考えを深めたりする質問に対する肯定意見や「1・2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」については、全国値を上回っています。今後も自ら課題を見つけ、考察し、また生徒間で自らの考えを共有、深化する活動を進めていきます。また、「授業以外の読書時間」については、「全くしない」が全国値を上回っており、読書の啓発を進めていきます。

アンケート結果より、「家で教科書を使用して予習・復習している」生徒は全国値を下回るとともに、「家庭での学習時間が1時間未満である生徒の割合」は全国値並みであることから、家庭学習に取り組みやすい課題の設定及び家庭学習の習慣づけも必要と考えます。今後とも小学校やご家庭と連携し生徒への働きかけを進めていきます。

【自己肯定感等に関するもの】 「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定意見は、全国値を上回り、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定意見も全国値をやや上回っていることから、今後とも授業や行事を通じて、達成感や自尊感情を高めるよう取り組んでいきます。また、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対する肯定意見の割合は、全国値並みとなりました。今後とも、道徳・特活・総合等の時間を利用し、将来の夢等について具体的に考える取り組みを更に進めていきます。

【地域社会とのつながりに関するもの】 「1・2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人とかかわったりする機会があったと思いますか」、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」については、全国値をやや下回っています。今後、地域行事への参加の仕方を工夫したり、自分の生活との関わりについて考える機会をより多く作ります。

3. 今後の取り組み

以上の結果を踏まえ、今後更に学校生活を充実させ、授業や様々な行事を通じて、自らすすんで課題を設定し、解決に向かう姿勢を育てていきます。また、「朝食を食べる」、「同じ時刻に寝起きする」という基本的な生活習慣については、各ご家庭のご協力により、改善が見られることから家庭学習の充実に向けて、課題の設定や学び方について指導を継続していきたいと思いますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。